

すぎなみ大人塾 荻窪コース 2020 新荻窪はっけん伝 第1章～今だからこそ  
知ろう・つながろう・伝えよう～

テーマ：まちの“知りたい”をはっけんの巻

実施日時：2020年10月10日（土） 場所：消費者センター

- ゲストトーク：①「タウンマガジンとオンライン」 ogibon 編集長 松崎淳一さん  
②「荻窪音楽祭 街づくりを目指して始まったシロウト音楽祭」  
荻窪音楽祭実行委員長 水島隆明さん  
③バイオリニスト 尾池亜美さん（ビデオ出演）

司会者：松崎さんは今日お手元にもお配りしている ogibon の編集長で、その他ウェブでも様々な発信をしていらっしゃるということです。

松崎：皆さん、どうもこんにちは松崎淳一と申します。今皆様のお手元にあります ogibon という雑誌の編集をしております、一応編集長と名乗ってはいますけど、あまり”何とか長”というのが好きではないので、編集しているものと紹介させて頂ければと思います。まず私のプロフィール経歴についてお話しさせて頂ければと思います。私、1985年鹿児島県生まれで、趣味は飲み歩きと写真撮影、ほんともっぱら飲み歩いています。あとは釣りが大好きで海でよくルアーフィッシングをしています。昨年まではコロナの影響がなかったので、しょっちゅう釣りに行っていました。ちょっと自慢ですけど、鯛の76センチの大台が釣れて、これ、今日どうしても自慢したかったので、写真に入れました。

司会者：それは、どこの海で捕れたのですか？

松崎：鹿児島島の錦江湾で釣ってきたのです。

司会者：地元ですね。

松崎：はい、地元です。東京周辺だと鹿児島の方で52センチの鯛が自己記録です。2004年に大学の進学とともに上京してきて、それから最初宮前に住んで、その後桃井に引っ越して、天沼に引っ越して、今上荻に住んでいます。3回引っ越してずっと杉並、荻窪近辺からどうしても離れられない。天沼2丁目に住んでいた時に会社を始めて、今ちょっと移動して荻窪4丁目という事で、勤務先も荻窪近辺になっております。

司会者：歩いて通勤ですか？

松崎：運動不足気味なのに歩かずに自転車や車で移動しています。経歴をいうと、大学は、

今の総理大臣が通っていた法政大学の人間環境学部でまちづくりを研究していました。その時、建築関係のデザインをやっている講師に出会って、それで建築設計をやってみたいなという事で、卒業後工務店に勤めながら、多摩美術大学の夜間で空間デザイン・環境デザインを勉強しておりました。

通学している間は設計をしながら、最終的には学校の教授の会社に勤めたのですが、2012年に独立してボタンデザインという会社を作りました。最初はずっと設計の製図を外注で受けてやっていたのですが、段々そっちの仕事も減ってきたので、グラフィック系の仕事に特化してビジュアルデザインで、チラシ・ポスター・パンフレットとかそういった紙ベースのデザインを作ったり、ウェブサイトのデザインだったり、販促サインだったり、展示品のパネルとかのデザインを会社でやっております。

司会者：主に杉並区ですよ。

松崎：そうですね、主力は杉並区ですけども、東京近郊でも色々手広くやってはいます。でも、ほとんど杉並区の仕事が多いです。

司会者：この講座の参加者の皆さんが、既にご覧になったものもいっぱいありますね。力作はなんですか。

松崎：荻外荘のパンフレットは良く配って頂いているので、目につくかなと思うのですが、こういった区のイベント事のチラシを作ったりさせて頂いております。

こういった仕事からどうして地域のデザインにつながったのかといいますと、当初創業したての時ですけども、もちろん出身が鹿児島なので、コネやツテはなくそれに伴って仕事もなく、時間だけはすごくあった。時間があるなら、会社でできることはないかなと思って色々話していたら、ウェブサイトは作れるし、写真撮影が好きなので撮った写真とかをアップできるところがあればいいなというところに至ったのです。身近な好きなものを紹介するサイトを作りたいなと。よくよく考えたら、このまちが好きだなと思った。荻窪の情報ポータル Web マガジン、オギジンというものを最初始めた。これも色々あって現在閉鎖してしまっ

た。荻窪だけに絞って荻窪のお店だったりイベント、歴史とかについても色々紹介したりしていました。例えばですけどこういう、「川勢」さんという鰻屋が美味しい、手軽で飲めるところですけど、飲み屋が好きなのでこういうお店を紹介したりしました。最近話題になっている「吉田カレー」さん、まだ話題になる前に吉田カレーさんを紹介させて頂いたり、あとコウメ太夫さんが荻窪出身なので取材しました。初めてこういう Web 情報でコウメ太夫さんの素顔を出すっていう、結構尖った企画を色々やっていました。

司会者：今は、オギジンで検索しても見つからないですね。じゃ、結構先駆者のですよ。

松崎：結構、地域情報サイトをやられている方はいるのですが、続けるのが大変ですよ。残り続けていくという感じです。

司会者：おひとりでなさっていたのですか。

松崎：当時3人で回していましたね。協賛頂いてとかではなく、こういう事を勝手にやっていた。そうしていたら、ogibon 荻窪情報誌の方から声をかけて頂いたのです。それがちょうど3号の時でした。どちらかというと先にオギジンというサイトをやっていたら ogibon という雑誌が発刊されて、その ogibon の雑誌の中で2号に、私を取材して頂いて、荻窪のことをやっているのだったら3号からやってみないかっていう風にお声かけを頂きまして、2014年から企画、編集、デザインを担当させて頂くことになりました。1号を作った水島さんとか創業メンバーは別にてですね、私は途中から入ってきた者なので、実は編集長とかでかい顔をして話をするなんて変な話ですけども、3号から14号まで6年間ですかね、やってきました。

司会者：年に2回、足掛け7年ね。

松崎：そうですね。そして今15号に向けて取材をしているところになります。よくよく振り返ってみたら2014年3号から15号まで合わせると13冊作っていて、だいたい1冊につき平均23店舗くらいですね、ってなると荻窪だけで300店舗近くを取材しているのだなあと思うと色々頑張ってきたなあ。この資料を作っているときに気づいて、これからは荻窪で300店舗取材した人ですって、肩書に書き入れましょうかね。

司会者：名刺に書いた方がいい。取材のお店を見つけるのはご自分でアンテナを張り巡らせて？

松崎：そうですね。

司会者：お店が出来ちゃったりなくなったりしますが、その都度その都度、取材していくのですね。

松崎：ほかにも荻窪百貨店っていうのを2020年コロナ禍の影響の中始めたのですが、これがウェブサイトになっています。さっきお話ししていたオギジンの後また出来た荻窪の情報サイトになります。まずはogibonについてご説明させて頂きたいと思います。

「ogibon」とはそもそも荻窪地域情報発信委員会という団体が半年に一冊のペースで発刊している地域情報誌になります。年に2回、1号につき2万部刷りで結構フリーペーパーの中だと多い部数です。それを杉並区全域に配布して今14号まで至っています。

コンセプトとしては、地域振興を目的として、荻窪を訪れれば実際に会える人に焦点をあてたタウンマガジンになります。

行政からお金が出ているのじゃないかなって、そういう風に思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、毎号発刊費用、制作費や印刷費などを地元の企業や団体からの純広告と協賛だけで賄っています。なので、区からの後援は頂いてはいるのですが、基本的にこの雑誌が7年間続けられているのは、地元の企業の方、個人の方、地元を好きな方が応援してくれているから、今も2万部とか発刊できる。これって結構全国の地域フリーペーパーの中でも珍しくて、だいたい3年から5年ぐらいで終わっちゃう事が多いのです。なので、これは意外に荻窪の好きな人が多いのかも。荻窪好きがタウンマガジンを担ってひとつの形になっているのかなあという風に思っています。

そもそも荻窪地域情報発信委員会とは何ぞやという話ですけれども、これは東京商工会議所杉並支部、その中がさらにブロックで分かれていて、その荻窪ブロックのメンバーが立ち上げた委員会になります。この荻窪地域情報発信委員会とは基本的に荻窪の地域振興と商業発展を目的とした地元の若手経営者たち、発足当時は20代から40代ですけども、皆さん同じく年を取って大体30代から50代が中心になっているんですけど、2013年当時に立ち上げた団体です。だいたい2週間に1回くらいのペースで企画会議を行って、その企画会議の中で、次号ogibonでどういうお店を紹介するとか、どういうテーマでいくとか、そういう話をしています。過去の号は割愛してしまうのですが、10号はラーメン特集、11号は子育て特集、12号、13号、14号で生鮮三品、「魚、肉、野菜」とテーマを決めて発刊しています。

その他、荻窪地域情報発信委員会は、ogibonを発刊するだけではなくて、「荻窪名店イタリアンカレー」というご当地カレーを作ったりしています。80種類くらいのレトルトカレーを食べ比べして、どういうカレーがいいのだとか、結構真面目に作ったカレーになります。荻窪のイタリアンレストラン、ドラマティコの重岡シェフの監修で販売して、結局1万個ぐらい売れた。色々管理が大変だという事で、ずっと売り続けるのは難しかったので、今販売は見送っております。

あとですね、そのご当地レトルトカレーにちなんだイベントで『カレーなる戦い in 杉並』というものを開催しています。高円寺と荻窪があって、荻窪のタウンセブンの屋上で開催しているイベントです。これは、3000人くらい来るイベントでお客さんに喜んでもらえるというものなのですが、杉並区のお店の人達同士が仲良くなったりとか、新しくできたお店がこのカレーイベントを通じてお客様が来てくれるようになったりとか、そういう地域のお店同士だったり、お店とお客さんをつなぐいいイベントになったのではないかと思います。

ご当地キャラクターを作ろうということで、『りすボン』っていう荻窪のキャラクターを作ったりしています。これ、一昨年に生まれたばかりですけど、まだ知名度が低いかもしれない。皆さんもしLINEを使われていたら、「LINEスタンプ」「りすボン」と調べると出てき

ますので、購入をお願いします。ぜひ使ってみてください。

「I LOVE 荻窪」とか、「ふれ合いの街」とかそういうキャッチフレーズのスタンプもあります。多分荻窪を知らない人は買わないと思うので、荻窪を好きな皆様よろしくお願いします。こういった荻窪の地域ブランドをより多くの来訪者の方に周知できるように、いろんな角度から広報活動やイベント企画を行っているのが、「荻窪地域情報発信委員会」になります。

大事な ogibon についてなんですけども、ogibon をどういうテーマでやっているか、どういうコンセプトでやっているかという、基本的に地域情報誌なので、街の個性に合わせた特集を企画しています。先程軽く触れたのですが、荻窪はラーメンの街で有名なので第 10 号を記念して一冊丸ごとラーメン店の特集となっています。

あと、「おさかな天国」、タウンセブンに魚耕と東信水産っていう 2 つの大きな魚屋さんがあって、どうして荻窪は大きな魚さんがどーんとあるのかと、スーパーで切り身の魚を売っていても丸魚で売っている魚屋さんってどんどんなくなっている中、荻窪と魚さんは根深い関係があるなという事で企画させて頂きました。

両方の社長同士対談をするという企画を組んだりしています。これも荻窪以外の人には誰だろうっていう感じかも知れないですけども、荻窪の人が読むとぐっとくる、杉並の人でもぐっとくるシーンなのかな。例えばこの春木家本店と春木屋さんの対談とかも、誰も内情は知らないのですけどきっと仲が悪いだろうと思っていて、こんな話持っていても絶対対談してくれないだろうと皆が思っていたのです。私が趣味で飲み歩いてフィールドワークをしている時に、春木家本店さんご主人、古川さんと仲良くなって、最初明るいおじさんだなあと思っていたんですけど、話を聞いてみると実は春木家本店の店主だったと。で、今度ラーメン特集をしようと思っているのですが、『こういう対談できますか？』って聞いたら、『全然出来るよー』って、仲悪いなんてことはなく、周りがそう意識しているだけで当人同士は親戚同士っていう事が分かっていた。『久しぶりに会うねえ』ぐらいの感じだったので、別にそんな仲悪いとかではない、ただつついそう思ってしまったというのがあったりしますね。あと東信水産と魚耕の社長お二人ですけど、昔からお二人とも 3 代目とかなので、仲悪いとかではなくて、昔から色々顔を合わせたり、飲んだりしている仲で本当は仲いいのですよね。でもどっかしらライバル視があるっていうところも対談の中でチラチラ出てきたりして、色々載せきれない事はたくさんあったんですけど、読みやすいようにかなりカットしてこの見開きだけの特集になっています。

荻窪の地域柄にスポットを当てるのもそうですけど、一番作る側で意識しているのは人に焦点を当てるという事です。飲食店の特集の方が読まれることが多いので、飲食店がいっぱい出てきます。けど、決してグルメ雑誌ではないっていうところを大事にしています。お店を PR するって何だろうってなったときに「美味しい料理があります、大人数で行きやすいです」とかそういうところとかもあるとは思いますが、結局地元の人が地元で探しているお店って、居心地がいいところだったりするので、美味しいご飯、もちろんそうなんですけど、どういってお店の人がどういう気持ちで作っているのか、そういったところの人の文脈の方

が大事ななと思っているので、必ずインタビューする時は、カメラマンとライターを連れてしっかり取材して大体一店舗あたり1時間弱くらい、丁寧に取材して、どうしてこの荻窪でお店を構える事になったのかとか、どういうお客様がいらっしゃるのかとか、どういう食材を使ってどういう方に食べてもらいたいか、そういったところをかなり掘り下げて聞いています。結局300文字くらいにおさめているので、相当面白い内容ではあるんですけど、なかなか限られた文字数の中で伝えるのは難しいなとかそういう風を感じています。

私の思い出深いものですが、3号から関わってですね、この3号で世界の料理を楽しもうって事で世界料理を11か国分紹介するっていう特集を作ったんですけど、世界3大料理って事で、「中華料理、トルコ料理、フレンチ料理」、この3大料理を紹介させて頂いたんです。この中華料理とフレンチそれぞれ「北京遊膳」さんとフレンチの「ハシモト」さん、荻窪でも有名なお店なんですけど、当時そういう事を全く意識しないで、雑に世界3大料理とひとくくりにもとめた事があまりよろしくなかったらしく、当時はちょいちょいと荻窪好きの方々から苦言を受けていました。北京遊膳さん、せっかく取材で来たのにこんだけの扱いかってというのは、確かに今自分が見てもびっくりします。見開きで特集できる取材じゃないかっていうことだったので。という反省も込めて3号は思い出深いです。あとは5号が結構思い出深くて、これ表紙が、マニアックな話になってしまいうんですけど、私ロックバンドが好きで「イースタンユース」っていうパンクなバンドがいるんですね、そのバンドのジャケットの切り絵画家をやられている方に初めて表紙をやって頂いたのが5号になります。結構味があって僕はものすごく好きで、しかもこの時のテーマが荻窪らしいのか微妙なんですけど、「ワンオペの名店」というテーマでした。ワンオペってあまりポジティブなイメージはないんですけど、あえてこれをポジティブな意味でとらえて、一人でお店を回している方のお店って味があるよねってところを引っ張ってきてこの特集にしました。他の雑誌にはないテーマと表紙の濃さとかこういう感じがogibonらしさになっていったのかなあと結構気に入っています、これでogibonの説明は一通り終わりです。

次は荻窪百貨店についてなんですけど、こういった地元の情報誌をやっていて色々なお店をまわっていたんですけど、コロナ禍の影響で、実際お店をまわったりとかするのが難しくなったんですね、お店の人たちも積極的にお客さんに来てくださいと言えない状況になったりしていて、街の情報を扱っている紹介している、我々が何をできるのかとずっと考えていたところ、荻窪百貨店というサイトを立ち上げました。この後説明するんですけども、基本的に感染防止対策に取り組む店舗のテイクアウト情報、臨時営業情報というものを発信しています。

もともとはogibonで同じ企画をしている佐久間ヒロコさんという方がいらっしゃる。その佐久間さんは高円寺で情報誌を取り扱ったり、高円寺フェスとかをやられている方なんですけど、高円寺百貨店というものを作ったんです。これちょっと高円寺だけじゃなくて杉並全域で出来たら、そういう話をしていてそこに乗っかせて頂いて始まったのが「荻窪百貨店」

になります。実際取材をせずにお店の情報を SNS で集めてきて、それを一か所にまとめて紹介すれば見るほうも見やすいだろうと、これってウェブだからできる事だからいいなと思って荻窪バージョンを作ったという流れになります。

荻窪のお店もそうですけど、全国中のお店が、SNS で本日は何時から何時までです、今日休みますってそういった情報を Twitter だったりフェイスブックだったり、インスタグラムとか色んなツールを使ってそれぞれがそれぞれの方法で発信している。臨時の営業時間を紹介しているのですが、それをまとめた荻窪のサイトがあるといいなっていう事で、どちらかというと SNS で店舗情報を集めたものを載せているサイトという感じが現状になります。そういった臨時営業時間とか休業日とか色々変わってきつつあるのですが、段々新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきて、お店も通常営業に戻りつつあるので、このようなサイトは必要あるのかなと思ったのです。せっかくのお店情報も集まっていますし、荻窪のイベント情報なんかを流すサイトに変えていけないかという事で、今後は観光や街歩きに役立つ、地域活性化に繋がるような記事を流していくサイトにもっていけたらと思っています。この後、水島さんからお話が出ると思うのですが、荻窪音楽祭、オギチャンネルというオンラインで音楽を聴いたりできるサイト、聞けるサイトを作ったりしているので、そういう情報を流したりとか、色々役に立つ、形を変えて役に立つ方向で進めていこうと思っています。今後の活動についてなんですけども、紙媒体で情報を発信したり、ウェブ媒体で情報を発信したりしていこうと思います。今私が一番興味があるのは動画です。荻窪のプロモーション動画を撮って荻窪百貨店で拡散しています。若い人は紙で見るとより動画で見ることが多かったりするので、そういう若い人たちに荻窪の魅力を伝えられるように色んな媒体をミックスして地元荻窪の魅力を発信したいなと思っています。

ogibon チャンネルって、ogibon が動画配信サイトを作っているんですけども、こっちは YouTube で ogibon と検索すると出てきます。過去 ogibon 冊子で紹介したお店を再度動画で紹介しています。ですので、話がどんどんと散らかっていったのですが、最終的にタウンマガジンとオンラインという事で、私はこういう感じで情報発信していますっていうのを紹介させて頂きました。情報発信する上で、無理やりまとめたんですけども、大事な事って何だろう、まず自分が好きな事を見つけることかなあと、まあそこまでは結構皆さんできるとは思いますが、これ好きだなあと思う気持ちを自分の中に留めておくだけじゃなくて、人に「伝える事」が本当に大事なことです。

私はこれが好きですって、自分が好きなことを人に言うのが恥ずかしいかもしれないですが、本当に好きだったら勇気を持って、大げさなくらい伝えるっていうのが大事なのかなって思います。私の場合、本当に飲み歩きが好きで、飲み屋さんのいいところとかを紹介したいなと思って始めたのがオギジンというサイトだった。お店を回る動機にもなりますし、こういう情報発信をしていますとお店で話していたら、じゃ、あそこのお店がいいから行ってきなよって感じでどんどんネットワークが広がっていったりします。で、次に大事なのが、とに

かく続ける事ですね。ひとつの媒体で続けていると、例えば、紙媒体で情報誌みたいな事をやっている、だんだんパターン化されていって疲れてきちゃったり、目立つ事をするとか叩かれたりもするんで、続けるのが大変ですけど、嫌な事があつたら、いつ辞めてもいいやぐらゐの気持ちで、続けています。せつかくだからこういうものにチャレンジしてみようかなと媒体変えたりして、とりあえず私はこういう事をやっています、荻窪の情報を発信していますっていうのを続けるって事がすごく大事だと思います。何でもいいと思います。手書きでもいいですし、動画撮影カメラで、iPhoneとか、スマートフォンで動画撮ってインスタグラムであげるとかでも。続けてればきっと形になっていくので、面白くなっていくと思います。私の場合、最初に話したオギジン、ウェブサイトが得意だっただけでウェブサイトをやったのですが、本当は紙媒体が好きで、ウェブ媒体を使って発信していた事があつたから、ogibonっていう紙媒体に繋がっていく。

最近興味あるのは、動画が好きで、動画配信サイトのogibonを通して作ったりしています。あとは、SNSで情報発信をするはずごく苦手、嫌いなのでやってはいません。最後になるのですが、続けるために大事なのはやっぱり人を巻き込むことだなあと考えていて、例えばogibonとかは、私は制作者として下請けで受けているので、ビジネスの部分もあります。それがあつたからこそ、嫌な事があつてやめようと思つてもやめられなかつた部分もあつたりして、結果続けて良かったなと思うんです。仕事が絡むと色んな人が関係してくるので、そう簡単にはやめられないなあというのはあります。オギジンは自社で勝手にやっていたサイトなんで、逆にやめる時にいつでもやめられた、それはちょっともったいないなと今は反省しているところです。あと、ogibonは今メンバーが14人いるのですが、14人とも仲間みたいな感じで楽しくできるところもあるので、ただただ情報発信をして嫌な思いをすることもあつたのですが、そういうのを愚痴で話せたりとか、色々消化できるので、どんどんコミュニティが広がっていいなと思います。以上でした、すみません、ありがとうございました。

### 【拍手】

司会者：素晴らしいお話をありがとうございました。今日の為に40何ページの資料を用意して下さつたのですが、ここにいらっしゃる方は全て荻窪を愛している代表みたいな方ですね。荻窪愛を全国の皆さんに発信出来るかという事を松崎さんに話して頂こうという趣旨だつたんですけども、皆さんお分かりになりましたでしょうか。

松崎さんが住むところをまず荻窪に決めた一番の理由っていうのは、丸の内線始発があるからとかそういう事ではなくて。

松崎：じゃなくて。これしょうもない話ですけど、一回も下見をせずに鹿児島から引っ越してきたのです。不動産屋の紹介で「法政大学キャンパスまで15分」って書いてあつたのです。じゃ、近いからそこでいいやと思つたのですが、そこは通うところと違ふキャンパスでした。結局市ヶ谷の方だつたんで、40分くらいかかつたんですよ。きっかけはそれだけですね、上京するまでは荻窪のことを全く知らなかつたのですが、大学まで近いという理由だ

けで荻窪に住むことになりました。

司会者：皆さん、ご質問を今から受け付けます。ogibon って、松崎さんの話をこれだけ聞かせて頂く前は、お店を紹介する冊子なのかなくらいに思っていて、松崎さんの ogibon への思いというか荻窪愛を聞くと、ogibon を見る目が私は変わりました。

松崎：ありがとうございます。結構フリーペーパーでも文章が多い方ですね、ひと記事当たり 300、400 文字って。だから、ほとんどの人が読んでないだろうとは思っているのですが、その分、写真には出来るだけ、こだわるようにはしています。

司会者：ウェブでも見られるのでしたっけ？

松崎：出してないです。お店の情報って常に入れ替わるので、ウェブにあげるのは難しい。最初のコンセプトでお話ししていたと思うのですが、実際に会える人に焦点を当てているので、この雑誌を持ってお店に行ってもらいたいというのが目的なんですね、ウェブで見ても面白いで終わるんじゃなくて、実際どういう人なんだろうと思ってコミュニケーションツールになってはじめて、この ogibon が地域活性につながられるのかなっていう風に思っています。

司会者：荻窪情報誌 ogibon は発刊費用を地元企業・団体から出してくださっている、そのようなタウン誌がある街ってそんなになんか知って、荻窪すごいと改めて思ったりします。皆さん、ご質問いかがですか。私たち今回の講座を、「はっけん伝」ってネーミングした、知るだけじゃなくて、自分の荻窪愛を見つめなおすだけじゃなくて、伝えるとこまでしたいなと思ってやったので、松崎さんとはそこまで打ち合わせしたわけじゃ全然ないんですけど、ぴったりと思いました。

松崎：なんか、ざっくりどこのお店が美味しいの？とかでも大丈夫です。

参加者：私、荻窪・天沼に越してきて 6 年目です。正直この ogibon という雑誌を前回の講座の時頂いて全く情報に触れる事もなくきてしまいまして、お家に帰って先月読ませて頂きました。東信さんとか魚耕さんとか、何回も子どもたちが小さい時から来ていて親しんでいたのですが、荻窪には昔から思い出がある。松崎さんは学生時代に鹿児島から出てきて、以来、荻窪暮らし、何故、荻窪から出なかったのですか？

松崎：ほんとに自分でも不思議ですがぴったし荻窪がはまったんですね。ここ以上に住みやすい場所はなさそうだし、引っ越す事によって今の環境が崩れるのだったら、永遠にここにいた方がいいなというくらいはまって。良く例えで言っているのは「水が合う」という表



司会者：ありがとうございます。今話していた事務所、荻窪家族レジデンスは、大田黒公園のはす向いにある緑色の立派な、あそこの一室が ogibon の発信地という事になります。

司会者：どうもありがとうございました。

### 【拍手】

司会者：それでは、続きまして今度は荻窪音楽祭の実行委員長でいらっしゃる水島隆明さんです。ogibon のこの情報発信委員会に関わっておられるという事でした。11月7、8、9日に荻窪音楽祭がある予定でしたがコロナ禍のため中止となりました。残念ながらリアルな荻窪音楽祭がなくなっちゃったんですけども、こちらも荻窪愛につまったお話なので、ぜひよろしくお願ひします。

水島：皆さん、こんにちは。今日は音楽祭を紹介させて頂ける時間を頂きましてありがとうございます。荻窪音楽祭で実行委員長をやっています水島隆明と言います。私に与えられた時間は15分なので、さっと自己紹介をさせて頂きます。今、音楽祭の実行委員長をしておりますが、建設会社を経営しております。実は、皆様が今いらっしゃるウエルファームは当社で作らせて頂きました。本天沼、ちょっとここから北へ歩いて3分くらいの本天沼で生まれまして本天沼で生活しております。東京衛生病院で生まれました。うちの子ども2人も衛生病院で生まれております。2018年の杉並公会堂オータムコンサートに学生時代からの友人達と一緒に出演したりしました。あくまで趣味の世界ですけども、トロンボーンを吹いて遊んでおります。今日の演題のサブタイトルですが、「街づくりを目指して始まったシロウト音楽祭」とつけさせていただきました。私が勝手に「シロウト音楽祭」ってつけてしまったので、荻窪音楽祭の他の実行委員の方からすると怒られてしまうかもしれないので、今日限りということでお願いします。でもそんなシロウトの良さを生かしてやっているつもりのも音楽祭であるという事を今日、良い意味で皆さんにお伝え出来ればなと思っています。

荻窪音楽祭は現在年1回、概ね11月の第2週にやっています。実施規模は、木、金、土、日の4日間です。昨年の実績は、29か所の会場で71回の公演を実施しました。出て頂いた演奏家は76団体。荻窪音楽祭も基本的には、お金は個人のサポーター、法人のサポーターの方からのご寄付で賄っております。現在個人サポーターが110名、法人サポーターが42社、サポーター会費は個人の方が1万円で、法人の方は年5万円を頂戴しています。共催という事で杉並公会堂さん、日本フィルハーモニー交響楽団さんに名前を頂いていまして、杉並区、南相馬市、先ほど出た東京商工会議所杉並支部、そういったところに後援をして頂いている音楽祭です。我々音楽祭のコンセプトは、住み良い街をつくりたいという事で、街づくりを初めに目指した音楽祭です。「心をこめた演奏が心のふれあいを広め、きっと住み良い街にしてくれる」、街を良い街にしようと始めたという、そのあたりの歴史を皆さんに分

かって頂ければと思います。荻窪音楽祭のコンセプトメッセージは「住みよい街をつくりたい」です。

例えば、「スムーズに南北が行き来できるようにバリアフリー化を目指し」とかですね、音楽祭のコンセプトとしてはテーマが入っていますが、そこに強い思いを持った人達がこの音楽祭を始めたという事をぜひご理解頂きたいなと思っています。音楽祭のあらましですが、様々なコンサートをやっていますが、発表の場をもうけて街のスポット体験をして頂こうというところなんです。

我々が主催をしている「会企画コンサート」は、杉並公会堂や荻窪の街中を舞台に演奏場所を提供して頂き、演奏したい方を集めてその場で演奏して頂いています。毎年6月1日から1か月間、演奏者を募集して、希望して頂いた会場に割り振って、当日の演奏をして頂くという事をやっています。会場は荻窪の北口駅前広場ですね、あとは、衍芸館(かんげいかん)さんとか、日本基督教団大宮前教会さんだとか、様々な荻窪の会場を提供して下さる方にご協力頂きながら、音楽祭を運営しています。

そして、もうひとつ大きな柱は、「自主企画コンサート」、これは音楽祭の期間にお店やご商売をPRして頂く場を作ってくださいという事をお願いしている。音楽祭が始まった前身ともなる、元となったようなコンサートです。荻窪で様々なクラシック音楽を聞かせるイベントをやってらっしゃるレストランとかカフェとか昔から結構あったのですが、それが点在していた。それを荻窪音楽祭という期間に一緒にやってみませんかという風に当時声をかけて、それ以来、自主企画という名前でコンサートをやって頂いています。主にカフェやレストラン、教会、展示場など、まずお店やスポット会場が自主的に主催している事が会企画との違いだというご認識頂きたいなと思います。公演自体は無料のものもあるけども、当然有料のものもある。カフェとかでやっている場合は1000円でドリンク付きとか、有料公演は要予約のものが多いですね。

名曲喫茶ミニヨンは、荻窪駅南口にありクラシック音楽を楽しみながら、カフェを楽しむというそんな喫茶店で大変居心地の良いカフェですのでぜひ行って下さい。かふえ&ホール with 遊では、田辺さんという方がやられていて、元々銭湯をやっていた田辺さん、銭湯時代からですね、人が集まる場所が大好きという事で、銭湯をやめた後も、何かこういう、人が来やすく集まる場所をやりたいという事でこのカフェを始められた。次はカフェクラブ石橋亭、これは四面道に面したところにあるカフェですね。こちらは昔からこういったコンサートをやって頂いております。

それと最近音楽祭で非常にニーズが増えてきているのが、0歳児向けコンサートという事で、子育て中のご家庭が多い中で、こういうコンサートをやると非常に反響が強いんです。音楽祭でも大切にしているのが、「0歳児向け」と「0歳児も入場できるコンサート」、実はこれ似て非なるものでして、0歳児コンサートというのは0歳児から入場は可能ですが、曲目に関してはクラシックな曲をやります。バッハとかベートーベンとか、子ども連れは可能だ

けど、楽しむ主体は大人ですよというコンセプトですね。次は音楽紙芝居で、公会堂の小ホールでやっているのですが、様々な紙芝居、ピアノでブルグミュラーという練習曲があるんですけど、そちらの音をこの紙芝居につけて、これも0歳児の方から楽しめるコンサートです。0歳児向けのコンサート、0歳児を連れて入れる大人向けのコンサートという事で、どちらも非常にニーズが高いコンサートです。

それと、8年前から始めた「フレッシュジュニアコンサート」は、子ども達に素晴らしい経験をしてもらいたいという事で、それまで音楽祭もクラシック愛好家向けの色あいが濃かったのですけれども、子ども達にも何かいい体験が出来るような機会を作りたいという事で、当時の実行委員で平田さんという方の強い思いで実行されました。その時に同じ音楽祭に協力して頂いている日本フィルハーモニー交響楽団の後藤朋俊さん、今常務理事をやってらっしゃるのですが、あくまでコンクールにはしないようにしようと、コンクールとならないように順位をつけない、あくまで選考を通った子がソロを弾くんじゃなくて、日本フィルの団員と一緒にアンサンブルしましょうという事で、この点を大事にやっています。

一方で、毎年非常にレベルが高くなっていて、選考にちょっと苦労していますけれども、まあだいぶ定着してきたかなと思います。今年は残念ながらコロナ禍の影響で中止に致しました。昔は小林亜星さんに協力して頂いて、選考に出て頂いたりしていました。練習は本番まで2か月間で3回やります。日本フィルの団員の方と一緒に練習するのですが、毎回本当に日本フィルの方が真剣にレッスンをして頂いて、3回のレッスンで必ずどんどん上手くなっていくのです。子ども達の著しい成長を見る事が出来て、毎回我々もとても勇気づけられている企画です。

続いて、「荻窪ユースアンサンブル」、OYEは、フレッシュジュニア、こちらを経験した子ども達がもう一回音楽祭に集まるコンサートを作りたいという事で、このコンサートを4年前から企画しています。帰ってくる場所を作りたいという事です。この後、動画でもご出演予定の尾池亜美さんにコンサートマスターをやって頂きまして、彼女がメンバーをサポートしながらやっています。OYEも残念ながら今年は見合わせております。練習も3か月間、公会堂のスタジオを使って練習するのですが、本当に尾池さんと子ども達が同じ目線で、同じ場所で指導しながら練習するという事で、とても子ども達の成長の機会としてもいい企画かなと思っております。

そして、「みらい夢コンサート」という事で、東日本大震災をきっかけにした南相馬市との絆ということで名前を付けさせて頂いたのですが、杉並区と南相馬市が防災協定を結んでいらっしゃることを皆さん、ご存じですか。東日本大震災がありました。その前に杉並区と南相馬市が災害時相互援助に関する協定を結んでいたことがご縁になりまして、今も杉並区の職員の方が南相馬に応援に行ってらっしゃって、南相馬市の方から2名が杉並区にいらして杉並区と職員の交換人事をやっています。今も非常に繋がりを保ちながらやっております。当時、非常に印象深いのですが、杉並区では区民に支援を求めて南相馬市支援の

募金を集めたんですね。杉並区は、赤十字に行く募金箱と南相馬市に行く募金箱と2つ用意して、南相馬に行く募金箱だけでも2億円ぐらい集まったという事が当時言われていました。もともとですね、南相馬への支援は日本フィルハーモニーの楽団員さんが南相馬市立原町第一中学校吹奏楽部に楽器クリニックとワークショップ（コーチ）に行かれた事がきっかけです。

福島県は、もともと非常に学校音楽が盛んな地域で、浜通りは吹奏楽、仲通りは合唱が盛んな地域です。この南相馬市にある原町第一中学校さんは、非常に熱心にやってらっしゃって、全国レベルの吹奏楽部です。震災によって半年近く部活ができなくなった中で、南相馬というのは福島第一原発の位置に近い自治体だったものですから、避難して帰ってこない方も多い中、部活を続けられるかどうかといった環境下で、頑張っている原町一中をぜひ音楽祭に呼ぼうという企画がこちらで始まりまして、以来6年にわたって毎年南相馬の原町一中を招聘しております。せっかくなので、杉並区の中学生と交流してもらいたいという事で、一緒にステージを組んで合同演奏をやらせてもらっています。合同演奏が終わった後に、公会堂のグランサロンを使って中学生同士の交流会を実施しています。2015年には天沼中の生徒達を南相馬に連れて行ったり、相互交流も一生懸命やっています。

こんな荻窪音楽祭ですけれども、荻窪音楽祭のはじまりというのは、「21世紀の荻窪を考える会」というのが昔存在しまして、1999年2月4日にクラシック音楽を楽しむ街、「荻窪まちコンサート」というコンサートをこの「21世紀の荻窪を考える会」が企画したのが、どうも音楽祭のタマゴだったのではと思います。これをきっかけに、クラシック音楽を通じた街づくりをやろうよという機運に繋がっていったのかなと私は聞いております。

「21世紀の荻窪を考える会」はさらにそれより前、1988年に荻窪の会社経営者や土地主などの有志8名でスタートした会合で、21世紀を展望しながら荻窪の発展を願い、住居、商業、文化地域として、調和のとれた魅力ある街を目指すための提言とその実現に努めるという事で、結構街づくり勉強会なんかを開いたり、他の自治体の幹部職員を呼んだりとか、そんな事を活動としてやっておったようでございます。そこに私の父もいたという事ですけれども、そこからですね、94年、95年ごろ、荻窪駅周辺まちづくり関係機関連絡会議が発足、これは杉並区まちづくり推進課が事務局となった組織が作られています。また東京商工会議所杉並支部による2010年杉並のグランドデザインづくりには、この会が考えた調和のとれた魅力ある街を目指すための提言内容が継承されていくという事です。

今荻窪の北口にバスロータリーが出来ていますが、当時「21世紀の荻窪を考える会」が考えたのは、北口のバスロータリー自体を複層化ですね、地下と地上にして、タクシープールを地下に作って、バスプールは上だとかですね、今考えても壮大な街づくりのグランドデザインを描いていたようでございます。その中で、一番下に書いたんですけども、クラシック音楽を通じたソフトのパワーを用いた街づくりの可能性が話し合われていたと記録が残っています。音楽祭への流れはどういう風に作られていったかという、ソフトパワーを持つ意義と書かせてもらったんですけども、荻窪駅の南北交通問題というのが今でも未解決の

ままの問題だと思うのですが、ハード面で中央線の高架化で中央線が上に上がるか、中央線の荻窪駅の上にデッキをかけるか、その2択しかないと思う。いずれにしても私有権の問題に繋がって、どうしても利害関係の衝突につながって、解決に時間がかかるだろうという事が予想されます。

そんな中、高円寺の阿波おどり、阿佐谷の七夕とか、そういった先例から、ソフト面で街の横のつながりを作りたいという事で、じゃあ、荻窪にはどんな資源があるかなというのと、杉並公会堂があって、大田黒元雄さんが住んでいた大田黒公園があって、ミニヨンがあって、当時タウンセブンでふれあいコンサートというのを行っていらしいんですけども、そういった荻窪の資源を見た時に、荻窪はクラシックでいこうということで、荻窪音楽祭が始まったようでございます。プロ、アマチュアを問わず参加できるという事で、地域住民が参加できる環境をちゃんとつくろうというのは、当時しっかり話し合われたようでございます。第1回、「荻窪の春・音楽祭」で、当時は「荻窪音楽祭」と言わず、「荻窪の春・音楽祭」という名前で始まったそうです。2000年の4月20日から23日という事でした。それまで個別のお店で行っていたコンサートをまとめてこの期間に実施したというのが「荻窪の春・音楽祭」の始まりだったようです。当時の広報すぎなみとか、今日一応持ってきたんですけど、コロナの影響であんまりこういうのは回し読みできないという事だったので、ここだけの紹介にさせて頂きたいんですけども、まあこうした街の名物行事に、手弁当の音楽祭とか、そんな触れ込みで始まったようです。

荻窪音楽祭の行事が確立するまでの当初の苦労話という事で、本日の演題のサブタイトル、シロウトたちの挑戦につながるわけです。先程見て頂いたように「21世紀の荻窪を考える会」というのは、会社経営者と土地主の集まりで、特にクラシック音楽に詳しい方々だったわけじゃないのですね。荻窪にはクラシックっぽい要素があるからクラシックでいこうと始めたものの誰が詳しいのだというのと、誰もいないという。まずですね、演奏する人が集まらない、「何その“音楽祭”って」、「どういうもの？」などで、目にとめてもらえない、得体が知れないので応募してもらえない。あと、演奏家の言っていることが分からないのですね。楽器の名前とか、プログラムにバイオリンと書きますけどもどういう風に表記するのとか、まあそういったところがなかなか分からないと、そういったところから始まったそうです。困って音楽大学の先生にコーディネートをお願いしたんですけども、音楽大学の先生の生徒さんがずらずらと来てどんどん演奏していくと、先生の発表会みたいになっちゃって、あららなんて事もあったそうです。そんな失敗を重ねながらも、現在の形になってきまして、当初からのプロもアマチュアもの精神は変えずにやってきているつもりです。逆に、シロウトならではの強みっていうのがあるかなあと思っていて、あまり資料が残ってなくて言葉でしかないんですけど、第13回では杉並公会堂のオープンを記念しましてOGIKUBO音楽祭交響楽団というのを組織して、プロの方を集めてやったんですけど、非常に調整が大変で苦労しました。手探りでやったため、非常に苦労してこれで1回きりでくたびれてやめちゃった事もありました。第17回はアイドルという事で小倉優子さんが参加したんですけど、ものすご

く大変な事になっちゃって警察がわあわあ来て注目を浴びたのですけども、アイドル目当ての人が来てアイドルの公演が終わったら皆帰ってしまって、実施甲斐がなかったなと思ったそうです。第20回はですね、指揮者の小林研一郎さんと日本フィルに出てもらったのですけど、これ実はすごくお金がかかって大赤字になってしまって、当時うちの父とかですね、知り合いの方に「ちょっと足りないからお金もっと出してください」、「分かりました」と、そんなやりとりがあったようです。今年の音楽祭は、松崎さんも言って下さったように、荻窪音楽祭公式「おぎチャンネル」というYouTubeチャンネルを始めたのと、あと今日皆さんのお手元にいっている「特別チャリティコンサート」を行うことにしました。まあコンサートも始められるようになりつつありますので公会堂の収容定員の半分までというルールを守って、医療従事者の方々に感謝を込めてということで、杉並区が設けた「新型コロナウイルス感染症対策寄付金」にチャリティを行おうという事で入場無料のコンサートにしています。ただし、この状況なので事前にお客様の情報を頂かないとお客様に入場頂けないので、このQRにアクセスして頂きますと、応募の出来るサイトにつながりますので、ここから情報を入力頂いて希望を出して頂ければと思います。音楽祭もこれからどうしていかうかというところですけども、シロウトの強みを忘れずにやっていきたいと思っています。

音楽祭の実行委員会もクロウトが増えてきたのですけども、クロウトが増えてくると前例踏襲に陥りやすく、常にやっぱりシロウトらしいチャレンジをしていきたいと考えています。それと当初はですね、商店街や町会の方々との関係も結構あったんですけども、最近ちょっとここが薄くなってきてしまって、もう少しそこをちゃんとやりたいなと思います。子ども達との取り組みも、これは変わらずやっていきたいなと思っています。それと、街づくりへの意識向上ですね、こんな空間が欲しいとか、こんな場所があればといった、ちゃんと街づくりにつながっていくような音楽祭の形というのを模索していきたいと思っています。音楽祭の本番の期間では、様々なボランティアの方々に受付や応援を頼んでおります。皆様も今日をきっかけにぜひボランティア活動に、やってみたいという方がいればご連絡頂きたいと思っています。すみません、だいぶ時間オーバーしてしまいましたけども、これで私からの音楽祭に関する説明を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

司会者：水島さん、ありがとうございました。

これから、水島さんのお話にも出た尾池亜美さんの演奏とビデオメッセージを見て頂きます。

司会者：荻窪音楽祭事業の一つである「フレッシュジュニアコンサート」出身者を指導していらっしゃる荻窪ユースアンサンブル、OYEの尾池亜美先生をご紹介します。東京芸術大学講師であり日本を代表するバイオリニストの方です。

司会者：尾池さん、荻窪の街との関わりを教えてくださいませんか。

尾池さん：はい、もう長いもので住み始めてから 20 年以上たつのですけれども、桃井幼稚園、沓掛小学校、天沼中学校とほんとにこの辺の小中学校でお世話になりました。音楽家として地元と関わる以前から、人間として育まれてきた場所です。

荻窪は地元の方々の地域への愛が本当に大きくて、街の文化をもっともっと咲かせようという事で私も荻窪音楽祭との関わりが始まりました。私自身はご縁ですけど、中学校 2 年生の時に通っている天沼中学校の体育館で母と一緒にコンサートをさせて頂いた。それをたまたま母の昔からの知人であり、合唱で共演したことがあった荻窪音楽祭のスタッフさんの一人、平木さんが聴いていらっしやいました。

彼が中学生になった私と母の演奏を見てくださったことにより、私の事をご存じでいて下さったんですけども、そこから演奏家として荻窪音楽祭に関わる事になりました。城西病院のホスピタリティコンサート、そこでも高校生の時、大学生の時に何度もお世話になってきました。このようにして荻窪地域の音楽行事に関わっていったのです。この何年かですね、荻窪音楽祭第 30 回の記念の年から、OYE で子ども達とのアンサンブルが始まりまして、日本フィルのメンバーの方とオーディションで選ばれた子ども達と同じ舞台に共演するっていうコンサートです。オーディションを経た子ども達の中の弦楽器奏者が主ですけども、オーボエの子もいるかな、一緒に合奏が始まりました。それで私自身お誘い頂いてそこでコンサートマスターとあとリハーサルの練習の中で指導というよりは、「ここはこうしてみない？」みたいな感じで私は提案させて頂くということで、演奏会を去年までやらせて頂いてきました。

残念ながら今年はコロナで出来ないですけども、子ども達というのがだいたい小学校 3 年生くらいから大学卒業されたくらいの方もいまして、皆で幅広い年代で作るアンサンブルで、とても充実した時間です。子ども達は、一言聞いただけで吸収する、わあっと想像が膨らむというか、何か月もかけて一緒に何度となく同じ場で練習をするのですけども、その時間一回一回で子どもたちの変化が素晴らしくて、それを皆本番にもっていく。私も子どもの頃一時間半のコンサートとかやったことなかったですけど、小学生の子達とかは、本当に集中を切らさないで前半も休憩を挟んで後半もできる姿とかが本当に感動的ですし、一緒に弾いていても毎年毎年本当に素晴らしい経験をさせて頂いているので、特にこの何年かは荻窪音楽祭の内容がとてよくなっています。

本当にラッキーだなと思っていて、自分の生まれ育った場所に音楽祭があるという事がなかなか貴重な事ですし、私が一番素晴らしいと思っているのは、この音楽祭はプロのものだけとかアマチュアだけではなく、全員のものですよね。ちょっとたまたま通りすがった方が荻窪駅の前で舞台があって生演奏を聞けたとか、それから始まってカフェとか色んな施設とか大小様々な場所で、どこかの会場に行ってみても、どなたにでも聞くことができる開かれた音楽祭です。無料のものもありますし、お金を払って聞くコンサートもある。選択肢もたくさんあるので、本当に荻窪の方とか近隣の方

とかに浸透していったらと思います。

司会者：ありがとうございます。

次は、OYE の指導に関わっている尾池亜美先生が私たちのために演奏をして下さるという事でぜひお聞き下さい。

【尾池亜美さん：サラサーテの「ツィゴイネルワイゼン」演奏を、映像にて鑑賞】

司会者：サラサーテのツィゴイネルワイゼンを弾いて下さいました。

これから講座の後半に入るのですけれども、エピソード MAP というのを作っていきたいと思っております。どういうものかという、尾池亜美さんの場合、荻窪音楽祭には荻窪出身のプロとして招かれたと思っていたら違っていた。亜美さんが天沼中学生の時に、演奏したバイオリンを荻窪音楽祭の委員の方が聴いていて、荻窪音楽祭とのご縁は、その時から始まっていた。このように、私と荻窪、尾池さんの場合は、荻窪音楽祭でしたけれども、そういったエピソードをぜひおひとりおひとり振り返って頂いて、それを皆でちょっと持ち寄ってみたいというのが、今日の後半のワークショップになります。

A3 の紙があると思いますので、このワーク用ってやつですね、ここに 10 分くらいですけど、一応例は書いてありますので参考にしてください。地図に皆様のご意見の付箋を貼って頂きたい、付箋には必ず場所と PR を書き出して頂きたいのです。このエピソードの詳しい内容は今日の宿題になります。

<本講座録の関連情報>

ogibon ホームページ：<http://ogibon.net/>

荻窪百貨店ホームページ：<https://ogikubo-depart.com/>

荻窪音楽祭公式「おぎチャンネル」：

<https://www.youtube.com/channel/UCxqVUTXi8qtUpIdsSs5Ewvg>